

風しんについて

新潟県福祉保健部健康対策課

1 風しんとは

- 風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。主に咳やくしゃみなどの飛沫により感染します。
- 症状は不顕性感染から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり、関節痛を認めたりするなど、小児より重症化することがあります。
- 妊娠 20 週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、出生児が先天性風しん症候群を発症する可能性があります。

2 特に注意が必要な方

- 妊婦
風しんに対する免疫のない女性が、妊娠初期に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などを主症状とする先天性風しん症候群の赤ちゃんが産まれる可能性があるため、妊婦は特に注意が必要です。
- 妊婦の同居家族
妊婦への感染を防ぐために、同居家族も注意が必要です。特に 30 歳～50 歳代の男性は、抗体価が低いので感染する可能性が高く注意が必要です。
- ※ 抗体価が低い妊婦の同居家族等を対象に風しん抗体検査を実施しています。
詳しくは次のホームページを御覧ください。

(新潟県)<http://www.pref.niigata.lg.jp/kenko/1356843127200.html>(新潟市)https://www.city.niigata.lg.jp/iryu/kenko/yobou_kansen/kansen/kinnkyuufuusinn.html

3 予防方法

- 咳エチケットや外出後の手洗い
咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。
マスクを持っていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を覆い、他の人から顔をそむけて 1 m 以上離れましょう。
- 予防接種
・特に妊婦への感染を防ぐことが重要です。
次の (1)～(4) のいずれかに該当する方のうち、明らかに風しんにかかったことがある、予防接種を受けたことがある又は抗体が陽性であると確認ができた方以外は、医療機関に予防接種について相談することをお勧めします。なお、県では妊娠を希望する女性などを対象に無料で抗体検査を実施しています。また、市町村では、予防接種の費用の一部を助成しているところもあります。
 - (1) 妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族
 - (2) 10 代後半から 40 代の女性(特に、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方)
* 予防接種を希望される方は、妊娠の 2 か月前には接種を終了する必要があります。
 - (3) 出産後間もない女性
 - (4) 30 歳～50 歳代の男性 (妊婦又は妊娠出産年齢の女性労働者がいる職場や、業務上妊婦と接する可能性が高い職場で働く方は特に注意が必要です)
※職場における風しん対策ガイドライン
【<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/syokuba-taisaku.pdf>】
- ・ 定期予防接種対象者 (1 歳の方、小学校就学前 1 年間の方) は確実に予防接種を受けましょう。

4 届出状況

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
新潟県	1	5	8	51	1	1	2	0	12	1
全国	87	378	2,386	14,344	319	163	126	91	2,917	280

○新潟県：平成 31 年 2 月 3 日現在 (5 週) 全国：平成 31 年 1 月 27 日現在 (4 週)

※H30・H31 は特に関東地方 (千葉県・東京都・神奈川県) において多く報告されています。

◎厚生労働省のホームページにも情報が掲載されています。ぜひ御覧ください。

【http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/vaccination/】